

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立東予高等学校
学校番号(12)

教育方針	(1) 人格の調和のとれた、心豊かな人間を育成する。 (2) 創造性を身に付けた、主体的に行動できる人間を育成する。 (3) 時代の変化に対応し、国家社会の有為な形成者となる人間を育成する。	重点目標	「思いやりの心」を育み、「たくましく生きる力」を培う教育の推進
------	---	------	---------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	基本的生活習慣の充実	1日の欠席者5名以内の日100%を目指します。 A:100%以上 B:90%以上 C:80%以上 D:75%以上 E:74%以下	E	全体で70.2%(昨年度85.3%)であった。2・3学期の欠席者が多かった。コロナ禍の影響もあり、登校させる指導が難しくなっており、目標値を達成できなかった。	すべての学校の活動において、欠席が続く生徒への積極的な声掛けをする。情報を共有しながら登校しやすい環境を全教職員でつくる。
		1か年皆勤の生徒60%以上を目指します。 A:60%以上 B:50%以上 C:45%以上 D:40%以上 E:39%以下	E	全体で33.1%(昨年度51.8%)であった。3年生は42.2%であったが、2年生が39.2%と低く、1年生が17.5%とかなり低かった。	皆勤を目標に頑張っている生徒も多いため、自分の進路実現に向けて、全校生徒に皆勤の大切さを意識付けながら皆勤率を上げていきたい。
	授業の充実	授業の内容がわかりやすく楽しいと感じる生徒の評価(100点満点換算)80点以上を目指します。 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 D:50点以上 E:49点以下	B	全校で79.8点(昨年度全校で83.5点)であった。3年生は83.1点、1年生は80.3点であったが、2年生の評価が76.1%と低かった。	教科で個別最適な学びを研究・実践していく必要がある。さらなるICTの積極的な活用や、生徒の活動が増えるような授業展開などの工夫が必要である。3年間での継続的な学習に繋げたい。
生徒指導	態度教育の充実	大きな声で、1日10回挨拶のできる生徒を育てます。 A:10回以上 B:8回以上 C:6回以上 D:4回以上 E:3回以下	B	登校時の正門での挨拶や授業開始時の挨拶など概ね挨拶ができていたが、一部の生徒には身に付けることが難しかった。	休憩時間や外来者に対する挨拶も積極的に自覚をもってできるよう指導していきたい。
		身だしなみ指導の合格率年間90%以上を目指します。 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:60%以上 E:59%以下	B	年間の合格率は86%であった。大半の生徒の意識は高まりがみられたが、決まった生徒が何度も再指導を必要としたためである。	頭髪の基準について、生徒とよく話し合い、生徒自らが納得のいく基準を設定し指導していきたい。
進路指導	就職・進学指導の充実	生徒一人一人に応じた進路指導を行い、進路決定率100%を目指します。 A:100%(全員決定) B:未決定1人 C:未決定2人 D:未決定3~5人 E:未決定6人以上	B	自分の希望を決められないまま卒業する生徒が1名おり、100%達成とはならなかった。就職を希望する生徒については、昨年同様100%であった。	価値観が多様化しており、これまでの進路指導では不十分なことが今後増えると予想される。担任と協力して、生徒一人一人に応じた指導方法を考えたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特活指導	部活動・学校行事の充実	部活動加入率(全校)95%以上を目指します。 A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:80%以上 E:79%以下	A	部活動加入率95%で数字的には目標を達成できた。しかし、運動部への入部率が65%から56.5%と低下した。生産部は逆に26%から33%と増加した。	部活動加入率を維持しつつ、外部指導者や部活動指導員などを活用し、活動しやすい環境を整えていきたい。
		県総体出場50名以上を目指します。 A:50人以上 B:40人以上 C:30人以上 D:20人以上 E:19人以下	A	昨年在5部50人だったのに対し、本年度は7部56人の県総体参加であった。	部活動の積極的な活動を行うため、部活動の長所について情報発信をしていきたい。
		東高祭&バラ観賞会での来校者800名以上を目指します。 A:700人以上 B:600人以上 C:500人以上 D:300人以上 E:299人以下	D	4年ぶりに東高祭&バラ観賞会を実施した。外部からの来校者は500名弱であった。3月下旬からの準備開始、かつ教職員・生徒とも初めての行事運営であったが、評価以上に活動できた。	企画・準備を早めに行い、昨年以上に生徒が活躍するイベントを増やしていきたい。
その他	奉仕の精神の醸成	年2回以上の地域交流清掃活動や、環境整備活動を行い、奉仕の精神を養います。 合計で、A:4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:0回	B	地域の清掃1回、校内やその周辺の環境整備3回の計4回の活動を行った。これらの活動を通じて生徒に奉仕の精神が芽生えつつある。	昨年度の反省から落ち葉が散乱しやすい時期(11月)に奉仕活動を行った。
	資格・検定取得指導の充実	ジュニアマイスター顕彰認定者50%以上を目指します。 A:50%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:20%以上 E:19%以下	B	今年度のジュニアマイスター顕彰認定者数19名(42%)と数的には減少したが、受賞者の中には高難易度の資格検定を取得した生徒もあり、成果を上げている。	現状に満足することなく資格取得の奨励を積極的に行いながら、他の学習活動、部活動等への影響を踏まえて、指導内容の精選や工夫を行う。
業務改善	適切な勤務時間	出退勤記録表の提出を確実にさせることにより、勤務時間を守る意識の向上を図るとともに、年休平均取得日数12日以上を目指します。 A:12日以上 B:11日以上 C:10日以上 D:9日以上 E:9日未満	A	出退勤記録表を確実に提出できるよう、関係者全員に促した。また、会議の開催が難しい際には書面開催とし、会議の定時終了もほぼ守られていた。年休平均取得日数は14日2時間54分となった。	引き続き、テレワークの積極的な活用を促すなど、働き方改革の意識を醸成させ、各教職員のキャリアステージに合った働き方ができるよう提案したい。
	職場環境の改善	職場環境に関する意見を集め、働きやすい職場になるよう環境整備に努めます。	B	職場環境改善に向けて、備品の購入や保健管理講座の開催等を通して、メンタルヘルスケアの向上を図ることができた。	職場環境改善につながる備品・機器の購入・修復等について、教職員の声を吸上げ、より働きやすい職場環境整備に努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。